

個人株主の皆さまにお届けする情報誌

# NYK

## plus

NYK プラス  
2019 Autumn

Vol.  
26

**【特集】 船上電子通貨プロジェクトが始動**

最大150万人の船員経済圏構築へ



# ブロックで「飛鳥II」を作ろう!

## 郵船歴史博物館でイベント

当社は、子どもたちをはじめ、広く一般の方に向けて海運業に親しみをもってもらう取り組みを行っています。その一環として、横浜の山下公園に係留されている重要文化財「氷川丸」や、代表的な貨物船であるコンテナ船、当社グループが運航する客船「飛鳥II」をブロックで組み立てる教室を昨年6月から3回、日本郵船歴史博物館で開催しました。

7月26日に開催したブロック教室では、夏休み中の親子連れを中心に22人の方々が参加。100円ショップで購入できる「プチブロック」を使って、「飛鳥II」の組み立てに挑戦です。

材料は、クジラやフクロウ、さらにパトカーなどの本来は船以外の作品を作るためのセットです。これを、当社が作成した設計図を見ながら、まずはクジラの袋から取った黒いブロックで船体の1段目を作り、その上にフクロウの袋に入っている白いブロックで2段目を作り重ねる、という具合に組み

立てていきます。「飛鳥II」は17段構造で難しい挑戦でしたが、子どもたちは当社スタッフのアドバイスを聞きながら、お父さん、お母さんの手も借りて見事に完成させ、最後には笑顔で帰って帰ってくれました。

ブロック教室では模型づくりのほかに、当社広報グループの木幡龍太さんと安藤樹さん（二等航海士）、人事グループの益田耕司さん（二等航海士）が海運の役割や外航船の大きさ・種類、船員の仕事などについてスライドを使いながら説明し、子どもたちは真剣に耳を傾けてくれました。

木幡さんはブロックを使った船づくりについて、「誰でも簡単に手に入れられるものを使って作ることがするのが魅力です。子どもたちが新しいことに挑戦する大切さを学ぶとともに、海運と船、日本郵船に興味を持っていただきたいと思います」と語りました。

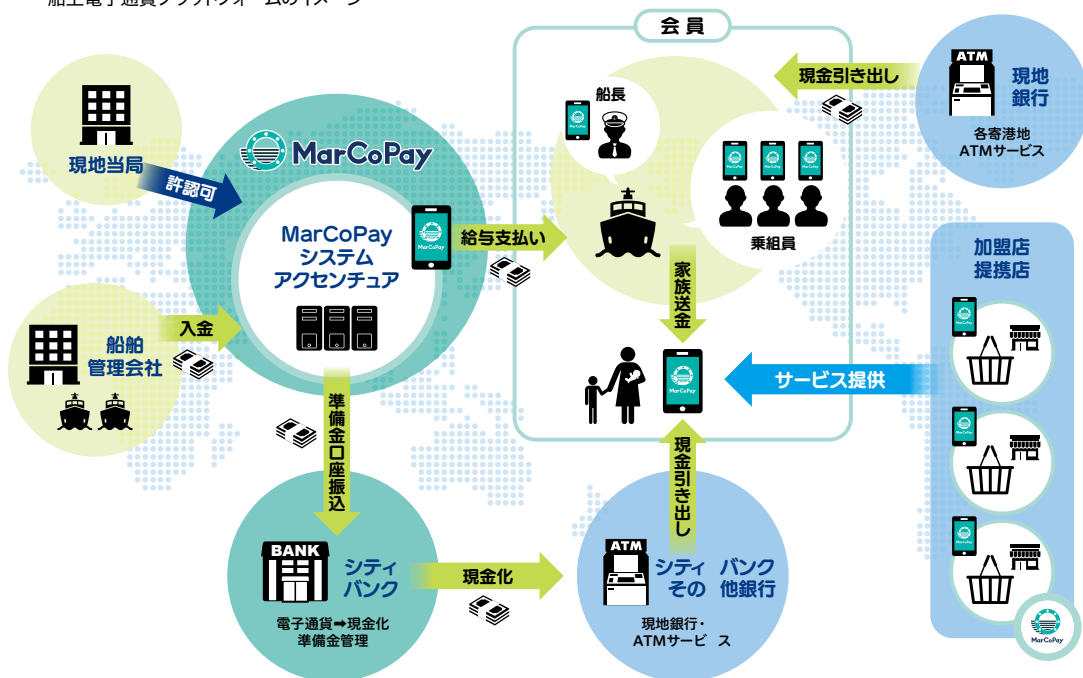


上／真剣なまなざしでブロックを組み立てる子どもたち

右／当社社員が海運について説明

左／完成した「飛鳥II」。  
二引や救命ボートも再現





当社は、世界初の船上電子通貨プラットフォーム「MarCoPay」の開始に向けた準備を進めています。「MarCoPay」は“Maritime Community”（海事共同体）に由来して名付けられたもので、QRコードを使って電子決済、国際送金、送金です。これを利用することで、船員とその雇用者である船舶管理ことができると考えています。さらに世界中の船員がその人数と所サービスを得ることができる経済圏の構築を目指しています。

（マルコペイ）」の来年からのサービス（Maritime Community）（海事共同体）に由来して再現金化することが可能となるサービス会社の利便性向上と負担軽減を図る得水準を背景に、より良い条件の金融

現在、多くの船員の給与は、一部が銀行口座に振り込まれますが、残りは船上で現金で支払われています。また、船上での日用品の購入も現金で行われるため、船上には一定額の準備金が必要になります。ただ、船員の給与を船上で支払うためには、船舶管理会社が現金を寄港地に現送する必要があります。その上、コストと手間が掛かります。その上、

ネット（金融サービスと情報技術）を結びつけたさまざまな革新的な動きが勃興する中、当社もこの分野で何かできないかと社員の有志が集まって研究し、今回の事業の発想につながりました。

船上電子通貨プロジェクトは当社の中期経営計画で掲げるデジタルイノベーション推進の一環として立ち上げたもので、当社の若手社員の発案から生まれました。2017年頃からフィ

## 船員・船舶管理会社の負担軽減

# 特集 最大150万人の船員経済圏構築へ 船上電子通貨プロジェクトが始動



船上電子通貨の専用アプリの画面イメージ

船内で現金を扱うと現金紛失などの

サルディング会社のアクセシチュア(株)がシステム開発を、金融大手のシティグループがグローバルな金融システムとの連携と再現金を担当しています。

アクセシチュア(株)は幅広いサービスとソリューションを提供するグローバルな大手総合コンサルティング企業です。金融業界を中心に豊富な導入実績を有するアクセシチュア(株)の最新技術を採用することで、複数のサービスやネットワークを一つのプラットフォーム上で連携させることが可能となり、開発にかかる期間も大幅に短縮されました。

リスクが生じ、出納業務を行う船長の負担にもなります。

「MarCoPay」はそういった問題の解決策として考案された船上電子通貨のプラットフォームで、フィリピン人船員を中心とする外国人船員を対象としています。スマートフォンアプリのQRコードを使って決済を行うことで、船上での給与支給や生活用品の購入をキャッシュレス化することができます。さらに、航海中でも自国への送金が可能になるほか、アプリの利用者が世界中のATMで現金として引き出すこともできます。

シティグループは、世界160以上の国と地域に約2億の顧客口座を有する世界有数のグローバル金融機関です。さまざまな先進的な金融ソリューションを提供する独自の国際的なインフラストラクチャーを持つシティグループと提携するCityPay、船員が世界中で電子通貨の再現金化や自国への効率的かつ安全な国際送金が行える仕組みの実現が可能となりました。

これらの強力なパートナーとの連携により、国際的かつ高度なセキュリティを持つプラットフォームを実現し、外国人船員と家族の利

## 強力なパートナーを得て 事業化加速

当社は2018年11月にこのプロジェクトを発表後、2020年1月のサービス開始に向けてシステム開発等の準備を進めています。7月12日に事業会社の「MarCoPay Inc.」を、当社のフィリピン人船員の配乗・訓練の長年のパートナーである複合企業グループ、トランスナショナル・ダイバーシファイド・グループ(TDG)との折半出資でマニラに設立しました。

このプロジェクトでは、総合コンベンションに貢献したいと考えています。

## 船員の生活を支える プラットフォームへ

MarCoPay Inc.の藤岡敏晃プレジデント・ダイレクター兼CEOは、「今回のプロジェクトの最終目標は、船員という職業集団が持つ潜在的な経済価値を具現化することです。それは、事業活動を通じて人々の暮らしを豊かにするという当社の企業理念『Bringing value to life.』にも通じます」と話します。

## 日本の船用機器を海外造船所に販売



## 郵船商事株式会社

海外船用事業グループ 海外船用営業チーム

武田 千尋さん



「MarCoPay」のロゴとプロジェクト参加企業（右から、シティバンク東京支店の児島勲執行役員、当社の丸山英聡専務と藤岡敏晃、MarCoPay Inc. プレジデント・ダイレクター兼CEO、アクセンチュア㈱の土居高廣執行役員）

世界に約150万人いると言われる船員は、給与水準が自国の平均的な消費者と比べて高く、経済的に優位な立場にあります。ただ、船員の所得や生涯賃金のポテンシャル、船員という職業集団全体の経済規模は社会的に充分に認知されておらず、その評価と実際の経済力の間には大きなギャップがあると云わざるを得ません。その背景には、世界中の船員集団を結びつけるプラットフォームが存在しなかったことや、船員の雇用が一般的に乗船ごとの期間契約であることなどがあります。

船上電子通貨のプラットフォーム

よっていわば世界中の船員の経済圏を構築することで、企業や小売店は船員という優良な顧客層にターゲットを絞って営業を展開することができます。一方で船員はその人数と経済力を背景に、有利な価格や条件で商品やサービスを購入することができます。このプラットフォームを開発した当社グループだけで利用するのはなく、世界中の海運会社、船舶管理会社のできるだけ多くの船員に参加していただき、世界中の船員とその家族の生活を支えるグローバルなプラットフォームへと進化させることを目指しています。

「私たち商社はメーカーさんのご協力がなければ何も売れるものがないので、製品を取り扱わせていただいていることへの感謝の気持ちを常に忘れてはいけないと思っています」



「この大型の水中サンドポンプは在来船を使った初めての大型輸出でしたので、思い出深い機器です」



海外旅行が好きで「あまり計合せず思い立ったら行くという感じでした。この前はデンマークに行ってきました」



たけだ ちひろ  
武田 千尋 さん

2010年郵船商事(株)入社。総務グループ人事チームを経て2015年に発足した海外船用事業グループ海外船用営業チームに配属された。同チームはマレーシア事務所を含めて10人の陣容。武田さんはチーム発足時からのメンバーで、現在は中国、台湾、タイ、フィリピンなどの造船所を担当している。

## ■日本郵船グループのエネルギー・技術商社

郵船商事(株)は、石油関連を主とするエネルギー事業と船用機器をはじめとするメカトロニクス(機械計装)事業を展開しています。エネルギー事業では船舶向けの燃料油・潤滑油や工場向けの燃料油などを販売するほか、太陽光発電などのグリーンエネルギー事業も手掛けています。メカトロニクス事業ではエンジニアリングを有する技術商社として、海上だけでなく陸上のプラント計装の分野にも事業を展開しています。

# 販売から貿易実務まで一貫対応

## 郵船商事(株)に入社したきっかけは。

海外と関わりのある仕事があったので商社を志望し、一方で親族が造船関係の仕事をしているため身近だった船に関われたら面白いなと思いました。そんな中で当社を知り、海外と船という二つがそろった会社だったので、自分がやりたいことができるかなと考えました。

## 海外船用営業チームの業務内容は。

アジアを中心とする海外の造船所に日本製の船用機器を輸出版売しています。取引の実績があるのは中国、台湾、フィリピン、タイ、インドネシア、スリランカ、インドなどの造船所で、グループ直轄のマレーシア事務所と連携しながら海外造船所の開拓を行っています。扱う製品は航海計器、ポンプなど主要な船用機器をはじめ、厨房や家電など船上での生活に関する機器まで多岐にわたります。案件によっては1隻単位で機器一式をパッケージで輸出販売することもあります。営業活動は造船所の直接訪問のほか、海外の展示会に出展するなどさまざまです。

## 現在のお仕事の難しさは。

お互いに言いたいことをしっかりと伝え、同意をとった上で前に進めていく必要がありますが、それが文化や商慣習が違う人同士だと難しく感じる場合があります。解決方法は密にコミュニケーションを取る以外にないと思っていますので、まめにコンタクトしていきます。

## このお仕事の面白さ、醍醐味は。

販売から納品まで一貫して担当できることです。自分が送った機器がそれぞれ船上のあるべきところに置かれて本来の機能を果たしているのを見ると、とても嬉しくなります。一番やりがいを感じる瞬間ですね。

## 海外船用営業チームと武田さんご自身の今後の目標は。

チームが発足してから地道に活動してきた結果が実りつつあるという印象を受けていますが、今もまだ新規開拓がメインになっていますので、安定的なお客様を増やしていくことがチームとしての目標です。個人の目標は、一担当として、契約後の船積みなど貿易実務まで一貫して対応できることがチームの強みでもあると思うので、今後もより貿易実務業務を極めていきたいと考えています。

## 「IT Japan Award 2019」グランプリ

当社は6月10日、(株)日経BP発行のコンピュータ分野の総合誌「日経コンピュータ」が主催する「IT Japan Award 2019」でグランプリを受賞しました。船舶から集めた航海・機関データを使って航行中のトラブルを未然に防ぐ船舶IoT(モノのインターネット)の活用事例が高く評価されました。

### 長い歴史で培った知見をデジタル化

「IT Japan Award」は優れたIT活用事例を毎年表彰するもので、今年は13回目の実施となります。過去には日本航空(株)やファナック(株)などの企業が受賞していますが、2019年度は、当社は受賞企業5社の中で最優秀賞であるグランプリを獲得しました。

当社はこれまで130年を超えて事業活動を継続する中、安全運航の徹底に取り組んできました。長い歴史があるからこそ持ち得る先達の知見やノウハウとデジタル技術を融合させることで差別化を図り、新たなビジネスチャンスにつなげています。約200隻の船舶のエンジンな

どの状態を把握するIoT機器を設置し、船舶ごとに異なっていたデータ名称や単位を統一して収集することによって陸上で監視できる仕組みを作ったほか、実際にエンジン故障を事前に察知して対処するなどの成果を上げています。これらが実用化したIoTの先進事例として、今回高く評価されました。

今回の受賞にあたり、7月10日に都内で開催されたIT経営フォーラム「IT Japan 2019」で当社の丸山英聡専務経営委員(技術本部長)が「日本郵船のデジタルイノベーションへの取り組み―歴史のデジタル化で半歩先へ―」と題して

特別講演を行い、長年の船舶運航のノウハウと新時代のITを融合し、常に半歩先を目指して取り組んだ当社の実績を説

明しました。

この中で、船舶データ収集装置「S-M」の運用を2008年に開始するなどデ



「IT Japan 2019」での講演の様子



記念のトロフィーを受け取る丸山専務経営委員(写真右)

ータ活用に早くから注目していたことや、データを活用した事故の予兆の早期発見や効率運航、状態基準保全などの取り組みを紹介し、「技術革新は日進月歩で進んでおり、少しでも遅れると取り返すためには莫大な手間とコストが必要になる。常に業界の一步、半歩先を、アンテナを高く上げて進んでいく」と話しました。

## JFE向けに次世代省エネ型のばら積み船建造

当社はジャパンマリンユナイテッド㈱と次世代省エネ型ばら積み船(21万1000重量トン)1隻の建造契約を締結しました。2021年に竣工後、当社がJFEスチール㈱と締結した長期契約に基づく鉄鋼原料輸送に従事する予定です。窒素酸化物(NOx)・硫黄酸化物(SOx)排出規制強化に対応するとともに、同造船所の従来船と比較し貨物スペースの増加と燃費低減を実現しました。また、2020年以降の建造契約船に適用される温室効果ガス(GHG)排出規制基準を先取りし、より環境に配慮しています。(2019年7月)

## ドライバルク市況分析の新手法を発表

当社はアテネで開催された国際海運経済学会(IAME)大会で、変動するドライバルク市況に柔軟に対応するための新たな分析手法を発表しました。パナマックス・バルカー市況分析で、需給変動とは独立した周期で市況が変動することに着目。従来より高い精度で市況の転換点を予測できる新しい分析手法を営業判断の支援ツールとして活用していることを、当社調査グループの林光一郎バルク・エネルギー調査チーム長が説明しました。(2019年7月)

## 横浜「うみ博」で海運業界や船の魅力を発信

当社グループは「海洋都市横浜うみ博」で、7月21日に大型自動車専用船「ARIES LEADER」の船内見学会と日本初のLNG燃料船「魁(さきがけ)」を含む次世代タグボートの体験乗船会を開催し、抽選で選ばれた家族連れをはじめとした約1700人が参加しました。



また、岸壁ではオーシャン ネットワーク エクスプレス ジャパン㈱の協力の下、冷凍・冷蔵コンテナの冷却環境を体感していただきました。今年はVR体験コーナーやスタンプラリーなど、子どもたちをはじめとする多くの来場者に楽しんでいただけるよう趣向を凝らしました。(2019年7月)

## フィリピンの船員配乗会社が創立30周年

当社のグループ会社であるNYK-FIL SHIP MANAGEMENT, INC. (NYK-FIL) が7月24日にマニラ近郊で創立30周年記念式典を開催しました。同国でのビジネスパートナーのトランスナショナル・ダイバーシファイド・グループをはじめとする関係者に加え、フィリピン各地から集まった船員とその家族ら約1000人が出席しました。当社の工藤泰三特別顧問はあいさつの中で「NYK-FILがNYKの船隊に優秀な船員を提供するという使命を果たし、安全な貨物輸送を通じて世界中のお客さまの信頼を積み上げてきたことを非常に誇りに思う」と述べました。

(2019年7月)

## NYKニュース

### 物理探査事業へ本格参入

当社が共同出資する㈱オーシャン・ジオフロンティアは、独立行政法人石油天然ガス・金属鉱物資源機構(JOGMEC)が所有する新三次元物理探査船に関する業務委託契約を締結しました。同船を使用した国内石油天然ガス基礎物理探査を実施する業務と、それに伴う船舶運航、本船の保守管理等を含む広範囲な業務を受託します。これによって当社はエネルギーバリューチェーン最上流である物理探査事業に参入し、経験と技術的知見を蓄積します。(2019年4月)

### 米国キャメロンLNGプロジェクトが生産開始

当社が三菱商事㈱との米国合併事業会社を通じて参画するキャメロンLNGプロジェクトが、LNGの生産を開始しました。今回の生産開始はLNG生産設備第1系列からのものです。現在建設作業が進行中の第2・第3系列含む全3系列合計で年間1200万トンのLNGが生産される予定で、当社はその海上輸送の一部も担う予定です。当社は本プロジェクトを通じてエネルギーバリューチェーンにより広く関与し、新たなビジネスチャンスを創出します。(2019年5月)

### 長澤仁志新社長が就任あいさつ

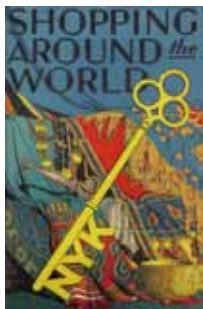
6月19日の当社第132期定時株主総会とその後の取締役会で長澤仁志が代表取締役社長に就任し、翌20日に本社で当社グループの社員に向けてあいさつしました。長澤新社長はの中で、著名な経営者の松下幸之助氏の言葉『企業は社会の公器である』を引用。「企業とは、社会が求める仕事を担い、次の時代にふさわしい社会そのものを作っていく役割がある」という視点から、社員に強く認識してもらいたいこととして「社会に必要とされること」、「全てのステークホルダーから信頼を得ること」、「地域社会の一員としてそのルールを確実に守ること」の三つを挙げました。その上で「当社の基本理念“Bringing value to life.”はわれわれの普遍的な価値であり、何ら変わることはない。社会の公器としての責任を自覚し、幅広く社会に貢献できることを大いに誇りに思い、世の中から信頼され続ける存在と一緒に目指そう」と呼び掛けました。

(2019年6月)





# SHOPPING AROUND the WORLD



SHOPPING AROUND the WORLDは、1938年に当社がアメリカから乗船する外国人のお客さま向けに作った英文の寄港地別ショッピングガイドです。30ページほどの冊子で、各地の観光ガイドと名産品が、米国人イラストレーターによるカラフルな色彩のイラストとともに紹介されています。

紹介されているのは、ホノルル、横浜、京都、上海、香港、シンガポール、バンコク、カイロ、ナポリ、ロンドンなど。例えばロンドンなら、沢山のかばんを運ぶ男性のイラストに「旅の土産には革かばんや旅行小物が良い、買ったかばんを見ているとロンドンでの美しい光景や思い出を呼び起こしてくれる」などといった解説が添えられています。

当時のお客さまは、異国情緒あふれるイラストや解説に寄港地への夢を膨らませたことでしょう。

日本郵船歴史博物館（横浜市）のミュージアムショップではSHOPPING AROUND the WORLDの中からホノルル、横浜、シンガポール、ロンドンなどのイラストを11種のポストカードにして販売しています。

ポストカード  
各150円(税込)



## 海事用語 AtoZ

本誌の中でご紹介した記事の中から、わかりにくい専門用語を解説します。

### 【船用機器】(はくようき)

9ページ

船舶には推進力を生む巨大なエンジンやプロペラ、発電機、安全に航海するために必要な舵、レーダー、無線、船員の船上での生活に必要な空調設備などの機器が搭載され、これらの品質がその船舶全体の品質を左右します。日本国内には高い技術を持つ船用機器メーカーが多数存在し、日本が世界に誇る海事産業の集積(海事クラスター)の重要な部分を占めています。

### 【状態基準保全】(じょうたいきじゅんほぜん)

12ページ

機器のメンテナンスを、経過時間(例えば1カ月ごと)に基づいて実施するのではなく、傷み具合などの状態に基づいて実施する方法。機器や部品の不必要な交換や保守作業の抑制、作業ミスの軽減などに効果が期待されます。この考え方は1970年代からありましたが、センサー技術の進歩により機器の劣化兆候の把握が容易になり、近年実用化が進んでいます。当社はエンジンをはじめとする船用機器で状態基準保全の研究を進めています。

### 【物理探査】(ぶつりたんさ)

13ページ

海底で深数キロメートルに存在する石油・天然ガスを探すために、エアガンと呼ばれる装置から音波を発生し、海底面や地層の境界からの反射波を本船が曳航するストリーマーカーケーブルで捉え、地下のデータを取得し、これを解析することで地下構造を把握する計測技術です。2018年に第3期海洋基本計画が閣議決定されたことを受け、日本周辺海域で資源の探鉱・開発に関する調査が継続されることになりました。

### 【鉄鋼原料輸送】(てつこうげんりょうゆうそう)

14ページ

鉄をつくる原料の鉄鉱石と還元剤として使用する石炭(原料炭)は、海上輸送されるばら積み貨物の非常に大きな部分を占めています。鉄鉱石の主な輸出国は豪州、ブラジルなどで、輸入国は中国、日本、欧州など。その輸送は、大型鉱石専用船やケーブサイズ・バルカーと呼ばれる最も大きなばら積み船で行われています。

### 【モジュール船】(もじゅーるせん)

裏表紙

重量物運搬船は、石油・ガスなどを生産するプラントの設備や発電機、港湾荷役機械などの重い貨物を吊り上げることができる強力なクレーンを備えています。モジュール船はクレーンでは吊り上げることができない超巨大・超重量貨物を運ぶための特殊な重量物運搬船で、貨物を専用の台車に載せて岸壁から直接積み込みます。

■ 春の休日 駿河クルーズ

2020年3月19日(困)~22日(回)  
横浜~清水~横浜 旅行代金 176,500~860,000円

■ 春うらら 横浜・神戸クルーズ

2020年3月22日(回)~24日(回)  
横浜~神戸 旅行代金 99,000~464,500円

■ 神戸発着 陽春の宮崎・日向クルーズ

2020年3月24日(回)~26日(回)  
神戸~細島(日向)~神戸 旅行代金 106,500~519,000円

■ 神戸発 駿河・横浜スプリングクルーズ

2020年3月26日(回)~28日(回)  
神戸~清水~横浜 旅行代金 99,000~464,500円

■ 春の週末 横浜ワンナイトクルーズ

2020年3月28日(回)~29日(回)  
横浜~横浜 旅行代金 56,000~273,000円

■ 春爛漫 四日市クルーズ

2020年3月29日(回)~31日(回)  
横浜~四日市~横浜 旅行代金 106,500~519,000円

# 2020年春、飛鳥IIが 新たに生まれ変わります



和洋室タイプの「アスカスイート」(イメージCG)  
※実際とは異なる場合があります。

令和最初のお正月は、飛鳥IIで

■ ニューイヤー グラム・サイパンクルーズ

2019年12月26日(回)~2020年1月5日(回)  
横浜~グラム~サイパン~横浜 旅行代金 557,000~2,804,000円



下記の各種キャンペーンや割引などが設定されています。

- =スイート体験キャンペーン
- =子供代金キャンペーン
- =バルコニー体験キャンペーン
- =ベビースイートルーム・キッズルーム
- =ファミリー割引10%

※ 記載の旅行代金は2名1室利用時のお一人様の代金です。  
※ 株主優待割引は他の割引(ファミリー割引10%等)と重複してご利用いただくことはできません。ご了承ください。その他のコースなどの詳細は下記までお問い合わせください。  
※ 右頁の改装内容およびイメージは2019年9月現在のものであり、変更・中止となる場合があります。

飛鳥IIは2020年1月中旬から、45日間かけてシンガポールでリニューアル工事をを行います。

— 展望大浴場ブランドスパには、潮風を感じられる露天風呂エリアを新たに設け、和洋室タイプの客室「アスカスイート」やPCコーナーとライブラリーが融合したブックラウンジが新登場します。

— ビュッフェレストラン「リドガーデン」やアスカスイート以上をご利用のお客様専用のプレミアムダイニングも改装し、より快適にお過ごしいただける空間に。

— 一部を除く公共エリアと全客室で利用できるWi-Fiサービスや客室へのビデオオンデマンドサービスも導入します。

生まれ変わる飛鳥IIと伝統の「和のおもてなし」で、上質な船旅をお届けします。

お問い合わせ



郵船クルーズ株式会社  
<https://www.asukacruise.co.jp/>

TEL 045-640-5301  
FAX 045-640-5366  
営業時間 / 9:30~17:00  
土・日・祝を除く

plus

## NYKと風力発電設備のはなし

風力発電設備は、巨大な風車の羽や塔などのパーツを製作し、船舶などでそれぞれ輸送して現地で組み立てています。当社のグループ会社であるNYKバルク・プロジェクト㈱は、長さが数十メートル、または重さが数百トンにも上る風力発電設備のパーツの輸送に適した船舶を運航しています。欧州では二酸化炭素（CO<sub>2</sub>）などを排出しない風力発電設備の建設が進んでいますが、今後はアジアにも多数建設される見通しです。



風力発電の羽を輸送するモジュール船「Yamatai」



日本郵船